

平成25年度調査報告書
「経済連携協定外国人看護師における国家試験合格後の問題」
そのⅡ：国家試験合格者の課題

目次

I 調査の概要

1. 調査の目的
2. 調査の対象
3. 調査の時期および方法
4. 回答の状況

Ⅱ 調査の結果

1. EPA 看護師候補者として来日した目的
2. 国家試験合格後、幸せ（嬉しい）と感じていること
3. 国家試験合格後、困難（辛い）と感じていること
4. 日本語について
5. 今最もしたいこと
6. 将来の目標（夢）
7. 日本や日本人について
 - 1) 好き、気に入っていること
 - 2) 嫌なこと、なおして欲しいこと
 - 3) 異文化の看護の質への影響

Ⅲ 調査総評

平成26年6月25日

NPO 法人外国人看護師・介護福祉士教育支援組織

調査責任者 青野淳子

I 調査の概要

1. 調査の目的

経済連携協定（EPA）で来日した看護師候補者のうち国家試験合格者（外国人看護師）について、合格者の側から合格後の問題点を明らかにする。

2. 調査の対象

第100回、第101回及び第102回看護師国家試験における EPA 外国人看護師候補者の合格者のうち帰国者、転院先不明の者、休職中の者を除く合計79名（合格年度別では、第100回9名、第101回41名、第102回29名）である。

3. 調査の時期及び方法

平成25年10月～平成26年2月

平成25年10月に調査対象者の受け入れ施設（48施設）に郵便にて調査票を送付し、郵送にて回答（無記名）を受領した。

4. 回答の状況

調査対象者79名のうち回答者（外国人看護師）は31名（39.2%）であった。回答者の合格年度と出身国を表1に示した。

表1 回答者の合格年度と出身国

国家試験合格年度	回答者数	インドネシア人	フィリピン人
2011年3月（100回）	5	5	0
2012年3月（101回）	15	9	6
2013年3月（102回）	11	8	3
合計	31	22	9

回答に使用された言語はインドネシア語（14名）、英語（13名）、日本語（4名）、タガログ語（0名）であった。インドネシア語翻訳は矢部幸雄及び介護福祉士候補者2名、英語翻訳は祝田剛夫及び青野淳子が担当した。

II 調査の結果

1. EPA 候補者として来日した目的を教えてください

（インドネシア人）

- ・日本の保健衛生文化はインドネシアよりずっと進んでいると思ったので日本の看護を知りたかった。看護について沢山学びたい。（3名）
- ・海外で看護師として経験をさらに積みたい（2名）。

(フィリピン人)

- ・看護師としての知識とスキルの向上及び経験蓄積のため（3名）。
- ・日本で看護師になり、日本で暮らしたいため。
- ・あこがれの日本で日本の文化を学びたかった。

2 看護師として幸せ（うれしい）と感じていることを教えてください。

(インドネシア人)

- ・日本は保健衛生面で進んだ技術を持っている。看護師として新しい事を沢山学べ、知識を増やすことができる。（7名）
- ・医療設備が整っている。病院の経営システムが良い。患者に対するサービスが素早く充実している。仕事中の安全にも非常に考慮されている。手袋は使い捨てであり感染しにくい。医療器具は勉強の為に使い放題。最も嬉しいことは患者が良くなること。
- ・先進国で学び働き、一人で誇りを持って成し遂げられる。学んだ学問は後に帰国しても自国で生かせる。
- ・給料がよいので貯金ができる、生活費を支える給料が沢山もらえる（2名）。
- ・看護師として私の知らないことや充分に分らないことを常に教えてくれる日本人看護師と一緒に仕事ができること。
- ・日本人患者に看護師として接することが嬉しく大変喜びを感じています、高齢の患者さんとコミュニケーション出来ること、患者さんから「遠い国から私達を看護するために来てくれてありがとう。私達はあなたのような人を必要としています。」と言われた時、看護した患者さんが元気になったのを見ること（3名）。
- ・日本文化（仕事の習慣など）をより明確に知ることができる、仕事における日本人が持っている原理、原則を学べること（2名）。
- ・進んだ国のプロと一緒に仕事ができること。

(フィリピン人)

- ・看護師として新しい経験がつかめるのが楽しい、仕事が楽しい、スタッフの管理の仕方がいい、患者への対応の仕方は貴重な経験をした、現場でのやり方に自分の国と違うところがあるが、覚えるのが楽しい（3名）。
- ・手術室はいろいろ先進技術が学べて、一番好きな職場、手術室での仕事なので、スキルの向上がはかれる、同僚とのいい関係の構築もできている、フィリピンで経験したことのない手術の作業を学んでいる（3名）。
- ・日本人と同じ仕事ができること、日本人の看護師や医師、他の医療スタッフと仕事ができるこ

と (2名)

- ・日本に来て4年。日本語でスタッフや患者とコミュニケーションしたり、意見を言えるようになった。その結果、自信がついて仕事が楽しくなった。
- ・機械の操作を覚えたり、患者と接することが楽しい。患者との会話は十分通じないこともあるが、毎日が勉強になっている。毎日へとへとに疲れるが、とてもやりがいがある。
- ・給料が高い。日本は看護が進歩している。
- ・日本語や日本の文化を勉強できた。美しい日本をあちこち旅行してたくさんの人に出会った。

3 看護師として困難 (つらい) と感じていることを教えてください。

(インドネシア人)

- ・看護師試験合格後、非常に難しさを感じている。仕事は日本人と同じようにやらなければならない。例えば漢字を使う報告書、薬やドクターの指示など。コンピューターシステムも沢山覚えられないといけない。仕事の40%は患者さんで60%は報告書の作成です。必ず参加しなければいけない訓練やセミナー。皆、話し言葉で早くしゃべる。私はこの病院のただ一人の外人職員。差別もある。更に2/3の人達は私と気が合わない。ただ、仕事の世界では良い人も悪い人も必ず存在するという事は私も認めます。たぶん彼らは海外 (日本) で仕事をするには日本人のように言葉が分からなくてはダメと考えています。多くの方がサポートしてくれるので物事を正しく捉えて、ゆっくりでも一生懸命勉強したい。休暇を取るのが難しい。
- ・日本語の能力が十分でないため、目的を達成することが難しい。
- ・患者さん、患者さんの家族、同僚、ドクターとのコミュニケーションが難しい。分からない言葉が沢山あります (9名)。
- ・漢字がむずかしい。記録を書く時漢字を使わなくてはならないが、辞書があまり役に立たない、漢字を書くことがむずかしい、漢字と日本語で書かれた本は簡単に理解できない (4名)。
- ・日本語で実習報告書を書いたり、看護記録を書くのが非常に難しい。記録を書くとき普段使わない言葉がある (3名)。
- ・患者に症状の変化があった時に日本語ですぐに報告することが難しい。
- ・日本では看護師と患者の関係は病院だけの事ではなく自宅や施設に帰ったあとも大事であり外国人看護師の私としては知識が非常に限られている。
- ・夜遅くまで残業がある。
- ・同僚との個人的関係が非常に難しい。
- ・日本社会は理解するのが難しい。言うことと心に思っていることが違う。
- ・日本社会は英語が通じないので理解するのが難しい。

- ・こちらに家族がいないので、精神的にきびしい。
- ・異なる文化や思想は、望もうが望むまいが、日本人の思考や習慣についていかなければ。

(フィリピン人)

- ・ 言葉が最大の障壁。看護記録をつけたり、患者に対応したり、それを次の人に申し送りをしたり。スタッフの中には、こちらのそういう大変な状況が解らない人もいて、同じ給料もらってるんだから、同じように仕事しろという人もいる。プレッシャーとストレスが大きい。
- ・ 日本語の難しさは当初も今も感じている。漢字での読み書き、日本人看護師の早いペースについていくのは大変。言葉の壁、漢字、日本語を理解したり、意見をいうのが難しい。日本語が上達していない。時々、患者が自分に何を言ったか解らないことがある。書類を日本語で書かなければならない。ケーススタディーも日本語で書かなければならない。患者に対し、検査の結果の説明や看護の方針などを説明するのが大変。手術室の電話にでることは難しい(6名)。
- ・ 日本語は大分上手くはなったけど、まだ十分ではない。そのため、仕事ですぐに対応ができなかったりすることがしばしばある。看護記録をつけたり、ケースワーカーと会議をしたりするのが難しい。
- ・ 日本語が難しいため、誤解が生じることもある。コミュニケーションの問題が一番大きく、他の2次的な問題もここから派生する、コミュニケーションの問題が仕事を難しくしている、最初は日本語の能力が低かったので、患者や他のスタッフとのコミュニケーションが大変だった、健康保険の制度についても理解できなかった(4名)。
- ・ 仕事が多いので(一人ではなく)チームワークでやるべきだ。長時間の勤務、それも理由が不明の時もある。
- ・ 時々、先輩にとっても厳しくされることがある。質問をすると怒ったり、仕事の些細なことを指摘されることもある。ついていかれないと、嫌われてしまう。
- ・ 日本語、長時間勤務など、文化の違い。日本人はフィリピン人看護師を過少評価していると思う。
- ・ 仕事中毒で家族と過ごす時間が少ない。

4 日本語について

(1) あなたは、国家試験合格後、どのような方法で、何時間、日本語の勉強をしていますか。

(インドネシア人)

- ・ 日本のテレビを毎日見ている(聞き取る訓練)、テレビで日本のドラマやニュースを見ている(3名)。
- ・ しょっちゅう本を読む。(看護学や小説・ちびまる子ちゃん)
- ・ 漢字の練習(日記をつける。)

- ・友達とカラオケへ、患者さんや日本人の友達と会話する（2名）。
- ・合格後ひと月だけ日本語の復習をし、仕事に就きました、一人で勉強してます、常に使う表現や漢字は繰り返し繰り返し書いています、時間のある時に1～2時間独習（2名）。
- ・NPOの先生たちから毎週土曜日午前10時から午後4時まで勉強している（2名）
- ・JLPT N1を勉強しています。月2回病院にボランティアの日本語の先生が来て2時間勉強しています。
- ・仕事が終わってからは日本語の勉強はしていません、仕事のあとで日本語を勉強するには疲れすぎです、時間がありません（2名）。

（フィリピン人）

- ・国家試験に合格後、新人看護師として、帰りは遅く、疲れ、その気になれない。それ故日本語を勉強する適切な時間がありません。そのかわりに、勉強の1法として日本のテレビをみている。
- ・日本語を勉強する特定の時間または予定はありません。しかし、私はその気になった時、インターネットまたは日本語-英語電子辞書を使って何かまたは日本語を調べています。
- ・試験に合格して以来、私の唯一の日本語勉強法は日本のテレビ番組やニュースを見ることです。
- ・（この質問のないアンケート用紙を使用してしまったため、回答がないもの3名、合格前について回答したもの2名あり）

（2）あなたは、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」のうちどの能力をもっと向上させたいと思っていますか。

（インドネシア人）

- ・すべて（4名）、話す（2名）、読む（3名）、書く（1名）

（フィリピン人）

- ・すべて（1名）、話す（2名）、聞く（1名）、書く（1名）

5 今後最もしたいことは何ですか。仕事に関係あること、ないことどちらでもよい。

（インドネシア人）

- ・日本語が流暢になりたい、日本語をもっと勉強したい、日本語の能力が満足できるように、日本語検定N1に受かりたい（4名）。
- ・看護学校の教師になりたい、私の得たものをインドネシアの看護の発展のために役立てたい、

看護学の教授になりたい（3名）。

- ・看護術をもっと高め、ACLS（救急救命）の仕事がしたい、BLS, ACLS（蘇生、心臓マッサージなどの救急救命）の訓練に参加したい、保健衛生に関する種々の訓練に参加したい、より高度な講義を受けたい（4名）。
- ・看護師としての技術を深めたい、経験を積み、日本の看護師としてその分野を究めたい、以前より取得している教育、学問をさらに積み重ねること（3名）。
- ・仕事仲間とは違う分野の人達とも交流したい。
- ・結婚したい。
- ・ありません現在の仕事を遂行するのみ、日本では、まだ計画はありません（2名）。

（フィリピン人）

- ・日本語が上手になりたい、自分の日本語を向上させたい、日本語のN1を取って、読み書きがもっとできるようになりたい、日本語の授業をとりたい、コミュニケーションの壁を乗り越えたい（4名）。
- ・日本で看護師として専門家になることと。
- ・大学院に行って看護学の修士を取りたい。
- ・日本で看護師としての仕事を今後5年間か、それ以上続けたい。同時に家族とも一緒に暮らしたい。日本に家族を連れてきた場合、子供の学校のこととかをサポートしてくれる政府の支援のプログラムがあるといい。家族と一緒になら、日本に長く滞在できる。
- ・自分の家族が持てるようになること。
- ・少しでも長く滞在できるようにベストを尽くす。たくさん学んで、いただいた資格に報いたい。
- ・日本人は真剣に完璧な仕事をしようとする。それについていくのは大変だが、自分もそうなるように頑張りたい。
- ・まだ決めてない。

6 将来の仕事上の目標（夢）は何ですか。

（インドネシア人）

- ・更に精進して仕事を続けること。
- ・特に傷治療更に学びインドネシアで役立てたい、透析を学び、インドネシアに帰ったら、日本で学び仕事で得た事を生かせる透析の専門家になりたい、インドネシアに帰り ICU で働きたい。看護のスペシャリストになりたい、自国に帰り日本で得た学問を皆に分け与えたい。看護の分野で花咲かせたい（5名）。
- ・インドネシアで看護の先生になりたい（3名）。

- ・訪問看護を学びたい。
- ・自分の会社を持ちたい、従業員や使用人にはなりたくない、クリニックか病院を持ちたい（2名）。
- ・ずっと日本で仕事ができること。
- ・まず結婚したい。日本で看護師としてずっと働きたい。でもまだ一年も経っていないので60%以上苦しい。続けるかどうか、まだ判らないけど頑張ります。
- ・日本語に堪能になりたい。

(フィリピン人)

- ・日本に長く滞在して経験を積みたいし、言葉も覚えたい、フィリピンに帰ったら、修士課程に進みたい、日本あるいはフィリピンで看護師の仕事が続けたい、看護師をつづけて、日本の医療に貢献したい。EPAの看護師と介護福祉士の向上を図りたい、もっとみんなの助けになって、満足感を得たい。(4名)。
- ・将来は、看護師の養成がしたい。日本とフィリピンの架け橋になりたい。
- ・今は毎日のことで精一杯。将来のことは考えられない。このまま適応できるのか、あきらめて帰国するののかの間で必死にもがいている。もしここが乗り切れたら、次のことが考えられるようになると思う。
- ・東京の病院に移りたい。家族と一緒に生活したい。JICWELSが支援してくれることを希望する。自費で東京の語学学校に行こうと考えている。
- ・大学院に行って看護学の修士を取りたい。
- ・英語が使える国で看護師として仕事をしたい。

7 日本や日本人についてあなたが感じていることを教えてください。

(1) 日本や日本人について好きなこと

(インドネシア人)

- ・日本は清潔で礼儀正しいので好きです、日本人の規律、仕事や約束をするにあたり、常に時間を守ることを、日本で私の好きなことは、清潔さと秩序、清潔で秩序立っている、清潔で秩序正しいのが好き、時間に正確、時間を大切に、清潔、規律正しい(7名)。
- ・物事に対して常に全力(頑張ることが大好きです)、信頼関係が高い、互いに助け合う、プロジェクトを始める前の計画、準備(2名)。
- ・日本の文化は大変興味を惹きます。日本文化も大好き。お花見、夏の花火、暑い季節の祭り時のゆかた、折り紙が好き。日本食と景色。伝統的なお祭り、日本の伝統的な衣装と化粧(6名)。

- ・日本食おいしい、日本食が好き、ふりかけ、うどん、そば、そうめん、ラーメンなど（2名）。
- ・素晴らしい国、美しい国で景色が綺麗で空気がきれい。交通機関がOK。この国大好き。爺ちゃん、婆ちゃんもいい。若い人は。おとなしい。でもファッションは印象的。買い物はインターネットで何でもできる。悪い人が少ないようで夜の帰宅も安全。文化的祭りが沢山。四季があり、季節の変わり目に景色も変化し、大好き。四季があり楽しい（3名）。
- ・日本の交通機関は非常に使いやすく安全で気持ち良い。
- ・仕事中、私の日本語に限界があることを分ってくれる。
- ・日本の多くの学問はシステムが良いので満足している

(フィリピン人)

- ・よく組織されている、時間に正確、列に並んで辛抱強く順番を待つ、年長者を敬う、目的に向かって、規律正しく、時間の有効活用をすること、日本人は精神面がすごい、日本人は丁寧できちんとしている。お互いの協力関係、プロ意識と時間厳守、規則を守る態度。（5名）。
- ・日本人は親切でお互いに助け合う、みんなに良いと思うことをするように考えている、親切でお互いを尊重しあうこと、日本人の優しさ、チームワーク、いつも完璧をめざす姿勢（3名）。
- ・日本人の自然や歴史を愛する心、挨拶、食事、着物。
- ・テクノロジー
- ・日本人の平和についての考え方。
- ・花火
- ・日本人は正直でワーカホリック

(2) 日本や日本人について嫌なこと、なおして欲しいこと

(インドネシア人)

- ・個人主義が強い。およそ3年間隣人の名前さえ知らない。気まじめ過ぎる。物価が高い。必ず払わなければいけない保険や年金。外人に閉鎖的。酔うと面白い。へへへ、酒飲むと本当の性格が見える。どうしてこんなに立派な国なのに90%の人達は英語が出来ないのだろう。できればミスコミュニケーションも少なくなるのに。
- ・会話中しばしばイエスとノー、良いと悪いがはっきりしない。
- ・人種間の距離がある。
- ・格式ばって遠慮しすぎる。
- ・日本人は冷たい、他人と付き合うのがあまり好きでない、日本人は非常に閉鎖的で友達になのが難しい（2名）。
- ・日本人はケチ。節約し過ぎ。計算高い。

- ・①自殺率が高い。②食事の時の皿の種類がとても多い。
- ・冬がきつい、私はここの寒さが嫌い（2名）。
- ・嫌いなことは特に無い。
- ・記載なし（3名）

(フィリピン人)

- ・先輩後輩の関係。時々、先輩が新人をいじめる。ミスをするとそれで判断をされてしまう、上下関係がとても厳しい、後輩たちは常にプレッシャーにさらされている（2名）。
- ・とても几帳面で、些細なことでも気になるらしい。人が傷つく言い方をする。人前で叱る。仕事中は話をしないし、笑顔もない。仕事中は座ることを許さない。同僚との関係がとても難しい。
- ・ワーカホリックなところ、仕事ばかりの生活で、楽しみがない（2名）。
- ・黙っていて、何を考えているのか解らないことがある。読心術ができたらと思う。
- ・日本人ははっきりと言わないので、何を考えているのかわからないことがある。
- ・英語が通じないところ。
- ・生活費が高すぎる。すべてが高い。

(3) 異文化（あなたの国と日本の文化が違うこと）が介護の質に影響を与えますか

(インドネシア人)

- ・言葉の問題のほうがもっと大変です。文化の違いについては、今まであまり報告することはありません。
- ・私にとって言葉との戦いは大きな重荷でしたが、初めは文化の違いは私にとって大変な負担でした。言葉に磨きをかければどんな文化でもやがては理解できると信じています。どんなことでも時間が必要であり、非常に長い時間が必要と思います。
- ・日本では工作中、冗談を言ったりふざけたりしない。インドネシアでは工作中しばしば冗談を言ったりするので、緊張、ストレスはない。
- ・基本的にはそんなに違いは無い。いかにお互いが順応するかです。

(フィリピン人)

- ・病院のシステムが大きく異なる。文化の違いによりぶつかることも起こる。自分は出来るだけ周りに合わせるよう努めているが、自分はフィリピン人だし、それは変えられないと思うこともある。
- ・これは言っても大丈夫と思って直接言ったことが、実は大丈夫ではなかったこともある。
- ・患者や同僚とのコミュニケーションの仕方が異なる。

- ・自分の国では、仕事場を快適にしようとする。日本では、毎日がストレス。言葉がうまく通じない。個人の人間関係を築くのが難しい。外国人には親切ではない。ミスをすると人前で叱る。腹が立つし、傷つく。
- ・信念、文化、宗教の違い。ライフスタイルの違いも。

Ⅲ 総評

記述形式のアンケートに丁寧に回答いただきましたことに感謝申し上げます。

多くが日本文化などが好きで EPA 候補者となり、現在看護師としてほぼ満足していることは大変嬉しいことである。しかし、日本語の壁はまだ高く、コミュニケーション、看護記録（とくに漢字）、緊急時対応、電話などで困難を感じている。日本語能力を高める必要を感じているが、仕事が忙しいなどの理由で、テレビを見る程度の勉強しかしていない人が多い。仕事上の向上心が強く、経験や技術をさらに積み、将来は出身国で教える立場になることを希望する人もかなりいる。また、日本に長く滞在することを希望する者もあり、家族や子供と暮らすことに政府の支援を求めている。是非サポートをお願いしたいものである。

日本社会については清潔、秩序正しいことなどが、日本人については時間を守る、信頼できる、おもてなしの精神などが、日本の文化については、お花見、祭り、花火、折り紙などが、日本の自然については四季があり、美しいことなど、さらに食べ物がおいしいことなどが気に入っている。一方、先輩・後輩の関係、些細なことでも気になる几帳面さ、人前で叱る、仕事中は笑顔がない、仕事ばかりの生活で楽しみがない、はっきりものを言わない、物価が高いなどは苦手なようである。

我々日本人としては外国人看護師から多くのことを提言していただき、また、外国の文化を学び、それらを取り込むことにより新しいバージョンの美しい日本を構築したいものである。